

感染症診療と感染制御を支える カルバペネム耐性菌の 検査戦略

開催日時

2026年2月14日(土)
12:20 – 13:20

場所

幕張メッセ 国際会議場3F
会議室304 第8会場
〒261-0023 千葉県千葉市美浜区中瀬 2-1

演者

鈴木 里和 先生

国立健康危機管理研究機構
国立感染症研究所 薬剤耐性研究センター

座長

稻松 孝思 先生

東京都健康長寿医療センター

【参加方法】

事前申込制となります。
詳細は学会ホームページにて、ご案内いたします。

学会ホームページ



【展示のご案内】「NG-Test® CARBA 5」

本学会付設展示会にて弊社製品を展示しております。ぜひ弊社ブースにお立ち寄り下さい。



製品紹介ページ



要旨

鈴木 里和 先生

国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所
薬剤耐性研究センター

感染症診療と感染制御を支えるカルバペネム耐性菌の検査戦略

カルバペネム耐性菌の検査はカルバペネマーゼ産生の有無だけでなく、その型別が求められる時代となった。かつて、カルバペネマーゼの種類は比較的地域特異的であったが、今や世界中に拡散し、我が国でも従来「海外型」と呼ばれていた NDM 型が海外渡航歴のない患者からも分離されるようになった。また、アビバクタム、レレバクタムなどのDBO系β-ラクタマーゼ阻害剤配合薬やセフィデロコルなどの新規抗菌薬が登場したが、その有効性はカルバペネマーゼの種類によって異なるため、抗菌薬選択にも型別が必要である。幸い、COVID-19 を契機に病院検査室での遺伝子検査体制の整備やイムノクロマト法によるカルバペネマーゼ同定キットの発売など、型別を支える検査基盤も整ってきた。

グラム陰性菌感染症では発症 48 時間以内の適切な抗菌薬投与が予後に影響すると報告されており、迅速な結果報告が重要となる。しかし、臨床検体からの分離頻度の高い腸内細菌目細菌すべてにカルバペネマーゼ同定検査を実施することは非現実的であり、薬剤感受性検査に基づくスクリーニングが必要となる。一方、少ないながら存在する新規抗菌薬への耐性はカルバペネマーゼの種類のみでは予測できず、その感受性検査も必要である。迅速かつ精度の担保された薬剤感受性検査の臨床的重要性がますます高まっている。

感染制御面では、今後、多様なカルバペネマーゼ産生菌の国内定着は避けられず、型別を含めた検査データから、同一型カルバペネマーゼ産生菌の院内伝播やアウトブレイクの早期発見が可能となる。

医療費高騰が社会問題となる中、限られた医療資源を効率的に配分し患者利益を最大化するため、必要かつ十分な検査をいかに実施するかが問われている。最後に、標準予防策、特に手指衛生は最も費用対効果の高い感染対策であり、防ぎうる患者発生を抑えるべく、すべての医療従事者が確実に実践すべきである。